

1. 件 名：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構との審査の進め方に関する面談

2. 日 時：令和3年6月8日（火）9：00～9：20

3. 場 所：原子力規制庁10階南会議室（テレビ会議）

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 研究炉等審査部門

大島安全規制管理官（研究炉等審査担当）、来住補佐、木村補佐、小多係長

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

安全・核セキュリティ統括部 奥田部長 他1名

敦賀廃止措置実証本部 竹内副本部長

原子力科学研究所 6名

5. 要 旨

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「機構」という。）から、STACY 設工認（TCA 燃料貯蔵設備）の申請準備、JRR-3 設工認（燃料体、Be 反射体の更新）の申請の検討、RI 国内製造について、以下の説明があった。

- STACY 設工認（TCA 燃料貯蔵設備）については、6 月末には申請する予定。STACY 本体の設工認（その 4）については、6 月 21 日の週に申請予定。
- JRR-3 設工認（燃料体、Be 反射体の更新）の申請については、行政相談の結果を踏まえ、燃料体及び Be 反射体の更新をあわせて 8 月中に申請予定。
- RI 国内製造について、常陽でアクチニウムを製造する場合、Ra-226 もしくは Th-230 から製造する方法があり、どちらの場合も、FMF に持ち込み、化学処理をして試料を取り出すことになる。また、Th-230 の場合は、これらに加えて、FP 除去後、Th-229 を生成させ、 α 崩壊、 β 崩壊を経て、Ac-225 を製造するための施設が必要となる。現在、機構内で検討を進めている。

これらに対し、規制庁からは以下の点を指摘した。

- STACY 及び JRR-3 の設工認申請予定について拝承。スケジュール感を意識して対応をお願いしたい。
- RI 国内製造について、常陽を活用した製造法について拝承。許認可手続き等、今後、検討状況に応じて相談してもらいたい。
- 次回の面談では、バックエンド対策監視チームの開催に向けた準備の状況について確認したい。

これらに対し、機構からは了解した旨回答があった。

6. 配付資料

なし

以上